

リードギターのアレンジ

シュレッド系リードギター

シュレッド系リードギターの名演

- Jump / ヴァン・ヘイレン
- Jet To Jet / アルカトラス
- Fives / ガスリー・ゴーヴァン

要チェック！！

「ヴァン・ヘイレン」風リードギター

Right Hand

ライトハンドやピッキングハーモニクスを駆使した80s的な速弾きソロ。

サウンドメイク



ヴァンヘイレンの再現より汎用的なハイゲインサウンドをイメージ。

Mesa/BoogieをシミュレートしたGRATIFIERをMODERNモードで使用、ブースターSkreamerをインサート。アンプのゲインは上げすぎず、ブースターノボリューもを上げてゲインを稼ぐ。

DAW側でGuitarRigの前段にEQをインサートして80hz以下をカット、後段にディレイをインサート(SEND/リターンでもOK)し付点8分のディレイをかけた。好みにもよるがシュレッド系のソロではディレイは深めが良い。

「ヴァン・ヘイレン」風リードギター

アレンジの特徴

- ペンタトニック+ブルーノート(b5th)中心ながら
ライトハンドや現代的なテクニックを使い華やかなソロ。
- ライトハンドの多用
譜面上は1拍6連だが、4音1セットで弾かれていて、ギタリスト的には
2拍3連のタイミングでタッピングしている。音使いはナチュラルマイナー、
ドリアン等使うが、スケールを考えてというより、
指板上の押さえやすいポジションを押さえた感じ。
- ピッキングハーモニクス、アーミングの多用
ハイゲインサウンドはピッキングハーモニクスが出しやすく、
シュレッド系では多用される。最後のアーミングはピッキングの変わりに
瞬間的にアームダウンするトリッキーな奏法。
アーミング後にチョーキングするのもヴァンヘイレンお得意フレーズ。

「ヴァン・ヘイレン」風リードギター

打ち込みのポイント

ライトハンドは大きな跳躍が可能な奏法のため、ベンド幅は±12で打った。ベロシティはある程度バラしつつ、タイミングはほぼジャスト。この速さではバラしても効果が見えにくいので、ピッチベンドや他の箇所にも労力かける方が良い。

ピッキングハーモニクスは音源のアーティキュレーションは綺麗すぎるので、実音とハーモニクスがランダムに混ざるよう調整。ハーモニクスは実音の1オクターブ上、2オクターブ上、1オクターブと5度上などが出しやすい。ランダムに選び、実音とバランスを取るとリアルに聞こえる。

最後のアーミングはダウンは手で押し込むが、アップはバネの反動で戻るので、ダウンを気持ちゆっくり、アップを速めに打つとそれらしくなる。

「ヴァン・ヘイレン」風リードギター

The screenshot shows a Cubase Pro MIDI piano roll for a guitar track. The main staff displays a sequence of notes and chords with various annotations:

- ピッキングハーモクス** (Picking Harmonics): Indicated by arrows pointing to red lines above the notes.
- 2オクターブ上** (Two octaves up): A box highlights notes two octaves higher than the main line.
- 1オクターブ上** (One octave up): A box highlights notes one octave higher.
- ライトハンド** (Light Hand): A large box encompasses the right-hand portion of the piano roll.
- ハーモクスのキースイッチ** (Harmonic Key Switch): Two circles with minus signs indicate key switch events.
- アーミング** (Bending): A box highlights a note with a downward arrow, indicating a bend.
- Chord Sequence:** C Vib. P P P CD g. H ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ C ↓ P

Below the main staff, a separate track shows notes with the annotation: **ピッチベンドの値が違う場合は別トラックに分けて打つ** (If the pitch bend value is different, hit it in a different track). This track shows two notes labeled 'C' with arrows pointing to them.

「近代テクニカル」系リードギター

The musical score is written in G major (one sharp) and common time (C). It consists of three staves of music, each enclosed in a dashed-line box. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one sharp, and a common time signature. It features a series of eighth-note patterns with various techniques: a C-shaped bend (C), vibrato (V), double bends (D), and hammer-ons (H). A section of sixteenth-note triplets is marked with 'S S P'. The staff concludes with triplet eighth notes (3), sixteenth-note sextuplets (6), and sixteenth-note septuplets (7). The second staff starts with a treble clef, a key signature of one sharp, and a common time signature. It includes a triplet eighth-note pattern (3) with a vibrato (Vib.) symbol above it. This is followed by sixteenth-note sextuplets (6) with hammer-ons (H) and sixteenth-note septuplets (7) with hammer-ons (H). The staff ends with sixteenth-note sextuplets (6) with hammer-ons (H). The third staff begins with a treble clef, a key signature of one sharp, and a common time signature. It starts with a triplet eighth-note pattern (3) with a vibrato (Vib.) symbol above it. This is followed by sixteenth-note sextuplets (6) with hammer-ons (H) and sixteenth-note septuplets (7) with hammer-ons (H). The staff concludes with sixteenth-note sextuplets (6) with hammer-ons (H) and a final sixteenth-note sextuplet (6) with a right-hand accent (R.H.) and an arm (Arm.) symbol above it.

ガスリー・ゴーヴァン以降の近代のテクニカル系ギタリストのフレーズをイメージ。

サウンドメイク

サウンドメイクは1曲目の同じ。
1曲めで汎用的なサウンドを作ったので幅広く使える。

更に尖った現代的な音を出したい場合は、
アンプに5150をシミュレートしたVAN51を選べばもっとトレブリーな音が出せる。

「近代テクニカル」系リードギター

アレンジ、打ち込みのポイント

ペンタトニックを使いながらもドリアンスケールの多用、テンション感のある高速タッピングなど、ロック～メタル系とは一味違うプレイ。

1小節目2拍目ウラ～の $D \rightarrow C \rightarrow C\#$ の動きはA7構成音のC#を弾くために半音上、半音下の2音からのクロマチックアプローチ。このような音使いはジャズでよく用いられるが、近年のテクニカル系ではジャズに影響を受けた音使いもよく見られる。

速弾きやタッピング箇所では基本6連符だが所々に7連符を混ぜた。6連符が綺麗に続くと機械っぽくなりやすいので、7連符を混ぜることで人間っぽいニュアンスが出せる。

「近代テクニカル」系リードギター

2小節目の下降フレーズはフルピッキングのニュアンスを出すため、ミュート、ブラッシングのアーティキュレーションを混ぜてある。本来の使い方とは違うが、ピッキングのゴリツとしたニュアンスを強調し、後のレガートとのコントラストをつけた。

3小節目はハンマリング、プリングを駆使したレガートの速弾き。ドリアンスケールが主体。

タッピングではm7の構成音に加え9th 11thを加えた音列(E G A B D F# A)で演奏。速すぎて何を弾いてるか分からない速弾きも多い中、1音1音が聞き取れずともEm9やEm11の響きを感じ取れるフレーズで、垢抜けた印象になっている。元来ギターは(ペントニックを除き)音が調薬するフレーズは苦手だったが、テクニックが成熟していく中でこういう跳躍+幅広い音域のフレーズを弾くギタリストも増えた。

このようなフレーズをサラッと弾きこなすことも現代のテクニカルギタリストの特徴である。

「近代テクニカル」系リードギター

